

株式会社 **タスキン**

〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33  
TEL:06-6387-3411(代表)  
www.duskin.co.jp

グリーンレポート 2006



みんなで止めよう温暖化  
「タスキン」チーム・マイナス6%

**r100**

古紙配合率100%再生紙を使用



植物性大豆油・インキを使用

SF060616

06.6.1 -20,000





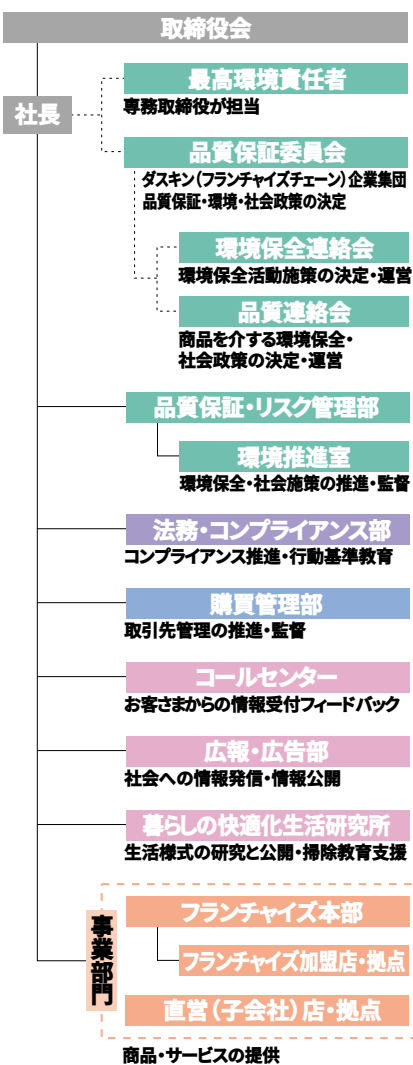
# ダスキン環境方針

私たちダスキンは、  
環境保全と企業経営の両立に全力で  
取り組み、生産から使用後まで、  
安全で安心、環境保全に配慮した  
商品・サービスを提供します。

## 3 環境負荷が少ない 物流と営業・販促活動

ムダのない、効率的な商品流通・物流と営業活動に努めます。車両活用に伴う排ガス汚染の軽減、CO<sub>2</sub>排出の削減に取り組みます。環境保全に、より優れた商品・サービスの積極的販売を推進します。

### ■環境マネジメント運営体制



## 1 環境負荷が少ない 商品・サービスの設計・開発・選択

原材料の調達から商品の製造、お届け、お客さまによるご使用、使い終わった後の回収再生や処分まで、すべての段階に配慮し、安全・安心で環境負荷低減に貢献する商品・サービスを開発し採用します。商品や資材の循環活用を推進し、資源のもつ価値を十分に活用します。

## 4 環境負荷が少ない オフィス活動や施設・設備

省資源で省エネルギーなオフィス活動を推進します。グリーン購入により、環境負荷の低い物品の活用を推進します。

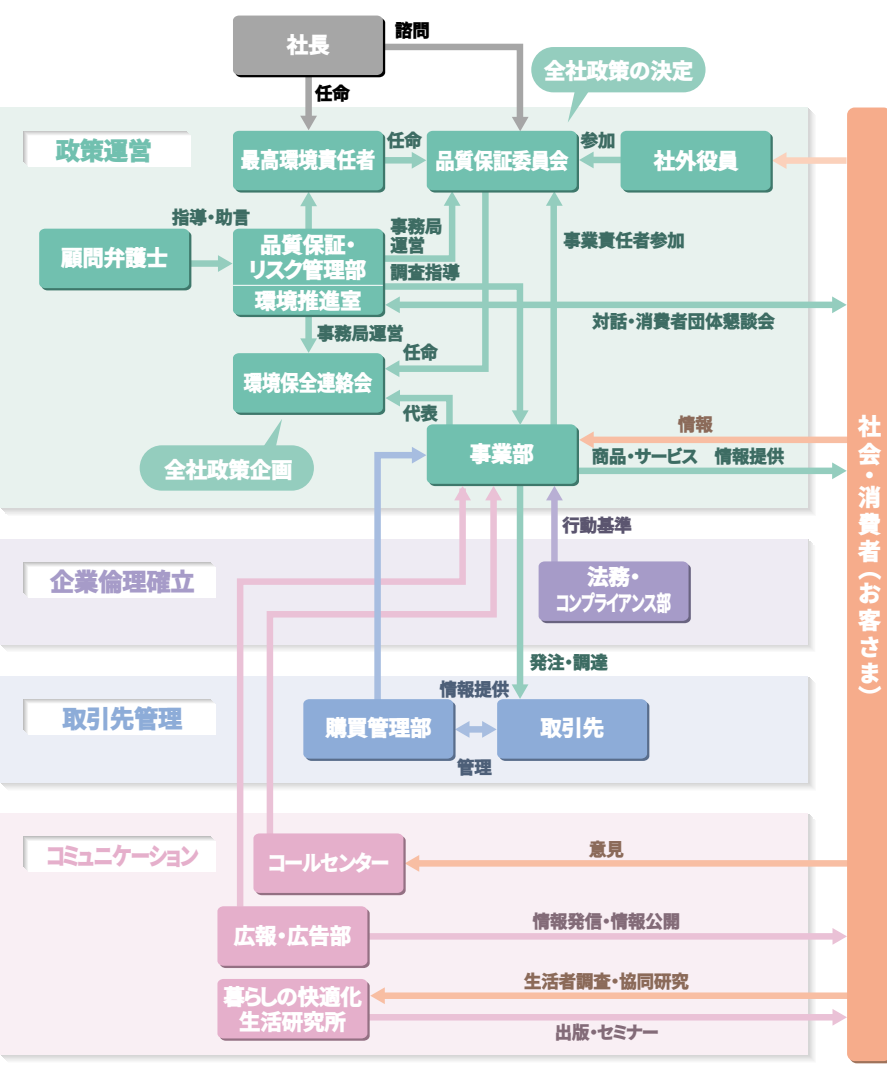
## 2 環境負荷が少ない 工場稼働

省資源で省エネルギーな工場稼働に努めます。廃棄物や環境負荷となる排出を抑制すると共に、排出物のリサイクルや有効活用を推進します。公害や事故を発生させない工場稼働に努めます。

## 5 環境負荷が少ない 社会づくりへの貢献

法令や規律を守ると共に、環境保全を推進するための社会施策や要請に積極的に協力し、自らも貢献できる施策を検討し、実践します。

### ■環境統治体制



# ごあいさつ

これからの暮らしと環境のために、  
「ダスキンのエコ」を追求していきます。

当社では、昨年よりテレビコマーシャルなどを通じて「ダスキンのエコ」というキャッチフレーズで環境への姿勢と取り組みをお伝えしています。ダスキンのエコの中心となるレンタルシステムは、商品のお届けと使用済み商品の回収を行い、回収した商品の再生、再利用、再資源化を繰り返すものです。商品の回収や再資源化のために、お客さまが特別な手間をかけずとも、エコロジーに参加できるシステムです。

事業活動に伴う環境負荷の低減は、どの企業にとっても避けては通れない課題ですが、当社では、電気や水の使用、廃棄物を減らし、可能なものはリサイクルし、工場での再生加工に伴う環境負荷を減らすと共に、各工程で使用する薬品などの安全性の向上に努めています。また、新商品の開発にあたっては、これまで廃棄されていた繊維を活用したり、製造、使用、廃棄までのすべてにおいて環境に配慮した設計をすすめています。日常生活の中でご利用いただくことの多いダスキンの商品やサービスは、小さなことも一つひとつ環境や安全への配慮を積み重ねることが、大切なことだと考えています。

ダスキンは「使い捨てはもったいない」という思いから生まれ、お客さまの生活環境を快適にしながら、自然からいただいた資源を大切に使う会社として、皆さまに育てていただきました。毎日の生活の中で、自然に、無理なく地球環境に配慮できるダスキンのエコを、これからもすべての事業の中で深めていきたいと思っています。







## クリーンサービス事業 レンタルを通じて、 お客さまと共に省資源に貢献していきます。

ダスキンの創業以来の基幹事業として、モップやマットなどおそうじ関連を中心としたレンタル商品を、全国のフランチャイズチェーン店ネットワークを通じて、お客さまに定期的にお届けしています。商品を繰り返し活用するレンタルは、その仕組みや商品をご利用いただくお客さまご自身が、エコロジー活動に参加することにつながっています。資源の循環活用を追求し、より価値の高い商品を、より環境に優しい仕組みでお届けすることが、私たちの責任として取り組んでいます。

### クリーンサービス事業データ

- フランチャイズ事業
- 事業スタート：1963年
- 訪問サービス
- お客様売上高：国内・2,391億700万円（家庭市場/50%）  
海外・12億9400万円（事業所市場/50%）  
（2005年度）
- 拠点数：国内・2,216拠点  
海外・9拠点  
（2006年3月末現在）
- 主な商品：家庭用／モップ、マット、浄水器、空気清浄機、レンジフードフィルターのレンタル、洗剤・スポンジ類の販売  
事業所用／モップ、マット、ウエス、空気清浄機、脱臭機、分煙機、化粧室関連商品、厨房関連の衛生管理商品のレンタルと販売
- ISO14001認証  
登録対象：本部と全加盟店、支店（国内）  
登録日：2001年3月30日  
登録番号：JQA-EM1483  
認定機関：財団法人日本品質保証機構

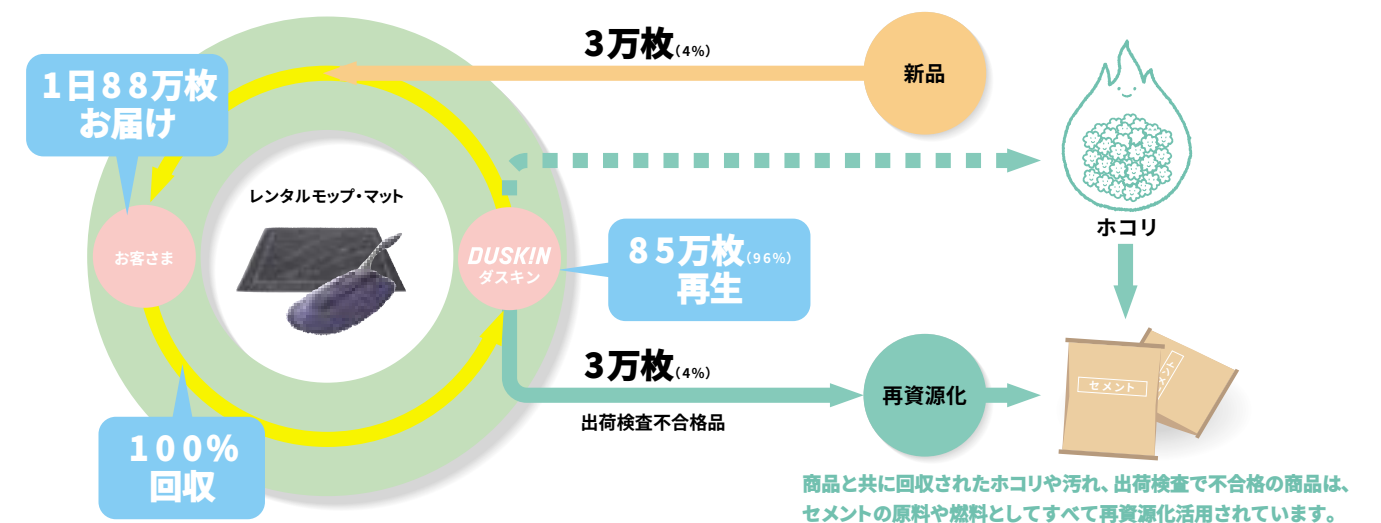
### ●環境方針●

クリーンサービス事業本部は、定期訪問により、日本中のお客様へ清潔、安全快適な生活環境を提案し、提供します。お客様の生活環境向上を使命と考える私たちは、環境汚染を予防し、改善するために下記の項目につき確実に実施し続けることを約束します。

- ① 全国すべての地域、地区において、環境法規およびその他の要求事項を確実に遵守し、健全な地域環境の保全に貢献します。
- ② 定期訪問、営業システムにおける省資源、省エネルギー、車両運行に伴う大気汚染の改善に積極的に取り組みます。
- ③ 本部および店舗での省資源、省エネルギーを推進し、働きさんおよび組織員に環境保全意識を徹底します。
- ④ 環境保全に優れた商品を開発し、お客様に対して提案することによりお役立ちします。
- ⑤ ISO14001に準拠した環境マネジメントシステムを実施し、お客様に信頼される組織、システムを維持します。
- ⑥ 本方針は、クリーンサービス事業本部の働きさん、および組織員に周知、全員で取り組むことを約束します。

## レンタル商品の循環システム

全国のお客さまにお届けするモップやマットは、1日88万枚にのぼります。販売ならば二度と返ってくることはない商品ですが、ダスキンでは100%回収。その96%(85万枚)が工場で再び商品化され、お客さまに届けられます。



### 環境にやさしい商品の開発

ペットボトルや企業のユニフォームなどの再生繊維を利用したマットや従来は廃棄されていた未利用繊維を活用したモップなど、さらに環境にやさしい商品の導入をすすめています。



エコマーク商品の充実にも取り組んでいます(P23参照)。



### リサイクルの推進

モップハンドルや空気清浄機本体など、レンタル商品付属品のリサイクル処分体制を全国の半分以上の地域で拡充しました(P21参照)。



### 低公害車導入を推進

お客さまに商品をお届けする営業車や配送トラックへの低公害車導入も、積極的にすすめています(P19・21参照)。



### 社員が環境家計簿に取り組んでいます

環境家計簿を通して、自分たちの日々の生活の中で環境への意識を高めCO<sub>2</sub>排出の削減に貢献。本当の意味で「環境にやさしい企業ダスキン」となるよう努めています(P25参照)。



環境家計簿

※クリーンサービス事業の環境報告をP15から掲載しています。





## ケアサービス事業

「きれいに大切にいつまでも使う」  
プロの技術で快適なエコ生活を支え、  
様々なサービスを提供しています。

ご家庭やお庭・オフィス・お店の空間や、エアコンをはじめとした各種備品を一流の技術で、  
清潔で快適にリフレッシュすると同時に、使う薬剤や作業はもとより人や環境にも配慮し、  
「安全」であることがプロの条件であると考えています。  
技術・安全・エコロジーをテーマに私たちはさらに皆さまのお役に立てるプロを目指しています。

### プロのおそうじ

#### サービスマスター事業データ

- フランチャイズ事業
- 事業スタート：1971年
- 訪問サービス
- お客様売上高：265億69百万円(2005年度)
- 拠点数：941拠点(2006年3月末現在)
- 主なサービス：家庭やオフィス、店舗、病院等の空間や各種備品のクリーニング、エアコンクリーニング、レンジフードクリーニング

### 害虫駆除

#### ターミニックス事業データ

- フランチャイズ事業
- 事業スタート：1988年
- 訪問サービス
- お客様売上高：64億69百万円(2005年度)
- 拠点数：318拠点(2006年3月末現在)
- 主なサービス：シロアリ、ゴキブリ、ネズミ、ダニ等の害虫の駆除・予防

### 家事の代行サービス

#### メリーメイド事業データ

- フランチャイズ事業
- 事業スタート：1989年
- 訪問サービス
- お客様売上高：62億99百万円(2005年度)
- 拠点数：359拠点(2006年3月末現在)
- 主なサービス：家庭のおそうじ代行、時間単位の家事代行

### 花と庭木の管理

#### トゥルグリーン事業データ

- フランチャイズ事業
- 事業スタート：1999年
- 訪問サービス
- お客様売上高：13億89百万円(2005年度)
- 拠点数：38拠点(2006年3月末現在)
- 主なサービス：庭木の年間ケア、樹木、花、芝生等のメンテナンス、ガーデニング代行

●ISO14001認証  
登録対象：サービスマスター、ターミニックス、メリーメイド、トゥルグリーン、  
ファシリティマネジメント、ヘルスケア、ホームインステッドの各本部と全拠点  
登録日：2001年4月27日  
登録番号：JQA-EM1552  
認定機関：財団法人日本品質保証機構

### サービスマスター事業

#### エアコンクリーニングで 省エネに貢献

エアコンに付着したホコリや汚れは冷暖房の性能を著しく低下させ、劣化を早めます。エアコンクリーニングによって機器の負担が軽くなると共に、本来の性能が回復し省エネ効果を生みます。



エアコンクリーニングの様子。

### サービスマスター事業

#### サービスで生じる 汚水にも配慮

エアコンやレンジフードのクリーニングなどでは、発生する汚水の管理にも配慮しています。お客さま先では、最も環境上安全な排水経路を確認すると共に、洗剤や汚れを多く含む汚水は適宜持ち帰り、適切な処理を行ってから排水しています。



エアコンクリーニングの汚水はポリタンクに入れて店に持ち帰って処理します。

### ターミニックス事業

#### 薬剤使用を少量に抑える 害虫駆除システム

ターミニックスの害虫駆除サービスでは、調査や予防管理に重点を置き、薬剤をできるだけ使わないシステムの導入を推進しています。シロアリ・ゴキブリ駆除では、少量の薬剤を染み込ませた駆除用特殊エサを使う「ベイト工法」を採用しています。



薬剤を散布せずシロアリを巣ごと根絶するセントリコンシステム(ダウ・アグロサイエンス商標)。

### トゥルグリーン事業

#### 薬剤にも こだわっています

トゥルグリーンで使用する薬剤は、日本で安全性を評価され登録された薬剤の中から、さらに米国環境保護庁(EPA)にも承認されている世界的に評価された薬剤※を、優先的に選定し使用しています。

※JMPR(FAO/WHO合同残留農薬専門家会議)が安全性を評価した薬剤。



### メリーメイド事業

#### 合成洗剤を使わない 「エコおそうじ」を提供

ご家庭の家事を代行するメリーメイドでは、アレルギーをお持ちのお客さまや自然派志向のお客さまにも対応できる「エコおそうじ」メニューも備えています。このメニューでは、合成洗剤を使いません。重曹や石けんなど自然の力で分解されてしまうものばかりを使って、おそうじを行います。



エコおそうじに使用する洗剤類。

- ・クエン酸
- ・重曹
- ・過炭酸ソーダ
- ・セスキ炭酸ソーダ
- ・液体石けん
- ・エッセンシャルオイル等

### トゥルグリーン事業

#### 活性炭入り培養土を 開発・販売

クリーンサービス事業でレンタルを終えた、使用済み浄水器カートリッジの活性炭を有効活用した「活性炭入り培養土」を開発しました。2005年度に行ったテスト販売では大変好評を博し、2006年度4月から販売をスタートしました。

またこの実績は、2事業部が連携して資源の有効活用に取り組んだ好事例として社内でも高く評価され、社長賞を受賞しました(P28参照)。



使用済み浄水器の活性炭を再活用した培養土。







## レントオール／ヘルスレント事業

限りある貴重な資源でつくられた商品を、  
みんなで大切に使う。  
レントオールは「みんなで使うエコ」を  
世の中に提案し続けます。

必要なときに、必要なものを「レンタルシステム」でお届けするレントオール事業。

「みんなが購入」せず「みんなで使う」ことを世の中に提案し続けてきました。

買わないことは捨てないですむと言うこと。

中古品の販売も行い「使わなくなった人から使う人へとリレーしていく中継地点」としての役割も担っています。

介護・福祉用具レンタルの専門店「ヘルスレント」としてフランチャイズ展開を開始するなど

社会のニーズに合わせた品揃えをすすめ、さらに利用しやすい「みんなで使うエコ」を目指しています。

### レントオール／ヘルスレント事業データ

- フランチャイズ事業
- 事業スタート：1978年
- 店舗サービス
- お客様売上高：102億81百万円（2005年度）
- 拠点数：レントオール 130店舗（2006年3月末現在）  
ヘルスレント 85拠点（2006年3月末現在）
- 主な商品：ベビー用品、旅行用品、家庭用品、  
イベント用品、事業所用品、  
公的介護保険適用福祉用具等のレンタル
- ISO14001認証  
登録対象：全店（本部を含む）  
登録日：2001年7月26日  
登録番号：JMAQA-E218  
認定機関：社団法人日本能率協会

### ●環境方針●

ダスキレントオールグループは家庭や事業所への価値ある商品のレンタル及びリサイクルを通じて快適で豊かな社会づくりのため事業を展開してきました。今後さらに21世紀の循環型社会構築のリーダーとして、レンタル及びリサイクル事業の領域を広げると共に豊かで安全・衛生的な社会の継続的な発展を事業の使命と信じ、かけがえない地球環境の保全を実現できる商品提供を続けてまいります。

- ① 商品メンテナンスを行う際は、充分環境に配慮し、それにともなう汚染の予防に万全を期します。
- ② 事業活動に伴う関連の環境法規規制及びその他のお約束事項を確実に遵守し、環境保全活動を積極的かつ継続的に推進します。
- ③ 事業活動においては省エネルギーを推進し、資源の有効活用に努めるとともに、商品のメンテナンスには万全を期し、お客様の安全を最優先として取り組みます。
- ④ この方針を全員に周知し、継続的に取り組み実践していきます。
- ⑤ この環境方針は、社内外に公表をします。

## 使わなくなったら買い取る リユースサービスをスタート

新品を特別価格で販売し、不要となった時点で買い戻してレンタル品や中古品販売に活用する「リユースサービス」をベビー用品を対象に行っています。「レンタルしたいけど、新品がいい」「使わなくなったベビー用品の処分が大変」というお客さまのニーズに応えたサービスとして好評を得ています。

### ●リユースサービス

消費者・お客さま



ダスキレントオールステーション

**DUSKIN**

メンテナンス・修理

- ③ 買い戻した商品は、レンタル品・中古品として活用されています。



## 中古品販売で二次使用を促進

商品によってはお客さまのニーズに合わせ、メンテナンスを行ってキレイにクリーニングし、中古品としての販売も行っています。



2006年3月、大阪府茨木市にて10店合同の中古品バザーを開催。約600人の来場者がありました。

## 2004年度より福祉用具の 取り扱いを本格スタート （ヘルスレント事業）

福祉用具はご利用になる方の身体にあっていること、また生活環境やご希望に合わせて選択できることが非常に重要です。使用される方の身体状況に合わせて用具を変更することも時には必要となってきます。

レンタルの仕組みは、このような変更にも柔軟に対応ができます。不要になったモノでも他では必要とされています。ヘルスレント※では、ご利用者さまや介助の方が使いやすい用具の提供と、廃棄物の削減にシステムを通して取り組んでいます。

※介護・福祉用具に特化したレンタル拠点。

## レンタルによる省資源

一つの商品をみんなで使うことにより、資源の活用効率が大幅に向上します。たとえば、ベビーベッドのレンタルは年間約26,000件※1におよびます。これらすべてのベッドを購入すると、年間26,000台分の資源が必要となりますが、レントオールでレンタルして使えば必要なベッド数は約7,000台※2ですみます。レントオールは地球の大切な資源を有効活用しています。

※1…2005年度 年間レンタル件数  
※2…ベビーベッド在庫数

年間約**26,000**件の  
ベビーベッドをレンタル



必要なベッド数

購入すると  
約**26,000**台

レンタルの場合  
約**7,000**台

## Support for Ecology Life







ミスタードーナツのエコは、  
使い捨てないエコ。

## ミスタードーナツ事業 いつもできたて。 心を込めた手づくりドーナツと、 使い捨てないエコロジーなお店で 皆さまをお迎えします。

環境にやさしいお店で、安心しておいしいドーナツを味わっていただきたい。  
ミスタードーナツは、お客さまにも地球にも愛されるお店であり続けたいと願っています。  
創業初期から、本格的なコーヒーを「使い捨てない」陶器のしっかりとしたカップで  
提供し続ける私たちのこだわりも、そこにあります。  
これからもさらに、くつろげるエコロジーなお店にしていきます。

### ミスタードーナツ事業データ

- フランチャイズ事業
- 事業スタート：1971年
- 店舗サービス
- お客様売上高：国内・1,204億71百円  
海外・68億47百万円  
(2005年度)
- 拠点数：国内・1,303店舗  
海外・1,406店舗  
(2006年3月末現在)
- 主な商品：ドーナツ、飲茶、コーヒー、ソフトドリンク等
- ISO14001認証  
登録対象：本部と全ショップ(国内)  
登録日：2000年4月21日  
登録番号：JMAQA-E104  
認定機関：社団法人日本能率協会

### ●環境方針●

ミスタードーナツは、お客さまに健康的で快適な楽しい食文化を創造し、環境に配慮した店舗や事業サービス活動を促進して地球環境に許される企業「ミスタードーナツ」を追求し続けます。

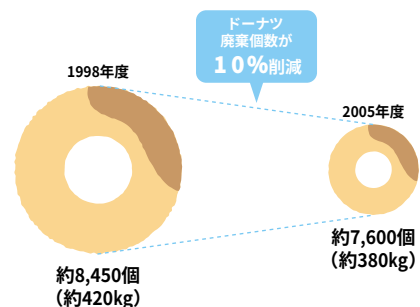
- ① ミスタードーナツは、全国チェーン店組織に環境管理体制を組み入れ、地域社会へのお役立ちと地球環境保全に取り組みます。
- ② ミスタードーナツ事業活動が環境に与える影響を評価し、環境目的・目標を定め、汚染の予防及び継続的改善を図ります。
- ③ ミスタードーナツ事業活動に伴う関連の環境法規制及び同意したその他の要求事項を遵守します。
- ④ ミスタードーナツ事業活動の全ての領域で、省資源、省エネルギー、リサイクル、廃棄物の削減に取り組みます。
- ⑤ この方針を、ミスタードーナツ事業に携わる全働きさん(従業員)に周知徹底して環境意識向上を図ると共に、年一回以上状況を把握して見直しを行います。
- ⑥ この環境方針は社内外に公表します。

### 食品廃棄削減への取り組み

#### ■製造管理徹底による発生量の抑制

ドーナツの廃棄個数を削減するため、全国のショップでは製造スケジュールの見直しや廃棄チェックリストによる管理を行っています。2005年度には、1998年度と比べて1店当たり月間平均850個(約40Kg)削減しました。

#### ●1店当たりの月間廃棄



#### ■閉店時陳列ドーナツのリサイクル

ミスタードーナツでは、閉店時直前にお越しいただいたお客さまにも多くの品数からお選びいただくことを心がけています。その結果、閉店時に残ってしまうドーナツがあります。ミスタードーナツでは、これらを資源として有効に生かす取り組みを続けてきました。閉店時の陳列ドーナツを回収し、飼料化処理工場での原料化や、液状化してそのまま飼料原料として利用するシステム(リキッドフィーディングシステム)の展開に取り組んでいます。

このシステムは、2003年度に関東エリアで導入を開始し、現在約360店で稼働、2006年度には近畿エリアでの導入を予定しています。

#### ●月間リサイクル量(リサイクルによる廃棄削減量)



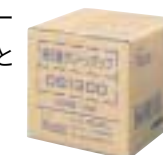
### 使い捨てない陶器カップを使用しています

店内飲食時の食器は、1974年度から陶器・ガラス製のカップや食器、金属製のスプーンを使用し、使い捨て文化の象徴ともいわれる紙製カップなどペーパーゴミの排出を極力抑えています。紙製にした場合と比較し、年間724トンの紙の使用量削減につながっています。



### ドーナツ調理後の油も全量リサイクル

ドーナツを調理した油(年間1,100トン)はすべて回収し、飼料やゴムなどの工業用原料として100%リサイクル活用。その一部はミスタードーナツショップの洗剤としても活用しています。



### 各ショップの省エネルギー推進

ショップでは水道光熱メーター管理やこまめな消灯などによって、省エネルギー活動を推進。2001年度の月間平均と比較して1店舗当たり、電力消費量を3,718kwh削減(削減率24.5%)、水道使用量を45m<sup>3</sup>削減(削減率17.8%)しました。

また、店舗改装と併せ、導入前に比べ8%の電気使用量を削減する省電力型店舗設備の導入を行っています。

さらなる省エネルギー型店舗出店を目的に、ガスコージェネレーション、蓄熱空調設備、オール電化などのテスト検証も実施。今後の省エネルギー型店舗の出店に向けて、設備オプションとして選択できるようにしています。



### ショップ出店後の環境保全チェックの実施

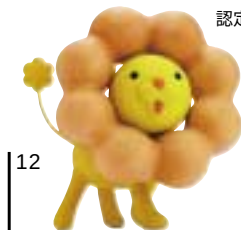
ショップを出店するにあたり、各種法規制や制約条件をクリアすることはもちろんのこと、環境面に配慮した店づくりを行っています。

出店後も環境面において問題が発生していないかなどの確認として、オープンから一定期間が過ぎると、「環境保全チェック」を行い、オープン後の環境影響確認を実施しています。

また定期的なチェックとして、運営面はもちろんのこと、ショップ周辺の環境面も含めたチェックを、地域責任者により実施しています。

### 店主(店舗運営資格者)に対する環境教育の定期実施

環境教育を周知徹底するため、店主候補者に対する必須研修のカリキュラムに、環境マネジメントの基本知識を組み込んでいます。さらに店主資格取得後2年に1度実施する「免許証更新研修」でも環境教育を実施。環境保全効果、経費削減効果、環境法規制の遵法などに対する能力を継続的に高めるため、研修修了時にはテストを実施すると共に、カリキュラム自体も定期的に見直しています。







ミスタードーナツ  
事業

## 安全・安心への取り組み

お客さまに安心してご利用いただくために  
徹底した管理体制を構築・実践しています。

商品開発  
(商品の検証)

### ●トレーサビリティの確認

原材料の安全性を、生産現場までさかのぼって管理できるトレーサビリティを確保した上で、添加物やアレルギー成分、遺伝子組み換えの有無、残留農薬など多項目にわたって確認しています。

原材料  
工場

### ●インスペクター(品質管理指導者)立ち会い検査

工場は、原材料の生産や管理が衛生的に行われているかを、インスペクターが定期的に検査をしています。新商品のテスト販売前には30項目87のチェックポイントについて、本販売前には80項目800のチェックポイントについて評価しています。

購買物流

### ●インスペクター(品質管理指導者)立ち会い検査

物流段階でも、原材料の保管・配送において、品質管理が徹底されているか、インスペクターが定期的に検査を実施しています。

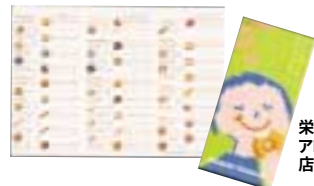
ショップ  
(衛生管理)

### ●ショップ衛生管理

全国のショップでは、独自のマニュアルに基づき、施設や設備の洗浄、調理工程での十分な加熱や器具・備品へのアルコール殺菌など、その手順に沿った衛生管理を日常的に行っています。また、商品の定期的な抜き取り検査のほか、スタッフには手洗いの徹底や身だしなみのチェックに加え、2005年度からは、毎月実施している従業員の健康状態検査の対象枠を拡大しています。

### ●成分情報の開示

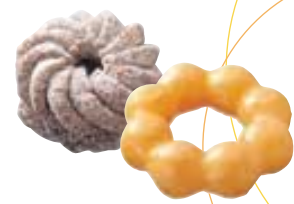
すべての商品について、原材料、栄養成分、アレルギー特定原材料などの情報を公開し、ショップの掲示物や配布物、ホームページなどを通じてお客さまに提供しています。



栄養成分情報・アレルギー情報を掲載した店頭配布用のリーフレット。

### ●安全確認会議

商品のテスト販売・本販売前には、食品安全管理責任者、商品開発、品質保証を担当する部門などから構成される「安全確認会議」を実施。お客さまに提供する時点で商品に残留してはならない成分や保存・流通条件のチェック、原材料工場への立入検査の結果検証、ショップでの取り扱い方法について確認し、確実に「安全・安心」なものを商品化しています。



### ●サニタリーチェック

スーパーバイザーによる指導に加え、衛生管理が確実に実施されているかを確かめるため、第三者公的検査機関の検査員が2カ月に1度、各ショップを予告なしに訪問。専門的な見地から、施設や調理器具、商品、店舗スタッフの衛生状態を入念にチェックし、総合的にショップの衛生管理状況を評価、問題のある項目は継続的に改善指導を行っています。

### ●お客さま視点によるプレミアムグッズの選定・検品

お客さまにとっては、プレミアムグッズもミスタードーナツから提供される商品の一つです。その選定や開発にあたっては消費生活アドバイザーなどのご意見も取り入れながら、食品と同様の安全管理を徹底しています。開発段階では自社商品検査センターで仕様チェックをした後、製品については検査だけを担当する工場により全品検査を行っています。



2006年度のプレミアムグッズの一例。

# 2005年度 環境報告

## クリーンサービス事業



## 報告対象範囲

### 1 事業の範囲

クリーンサービス事業  
(モップ・マットを中心としたおそうじ用品などのレンタルと販売)  
ダスキンは組織、商品・サービス、流通チャネルが全く異なる多事業を展開しています。従って、ここでは売上規模並びに社会認識上でも当社の主体となるクリーンサービス事業に絞って、データを収集・集約して掲載いたしました。掲載するデータの一部に、組織、流通チャネルの一部を共有する対象外事業を含む場合があることをご了承ください。



### 3 期間の範囲

定量データについては、2005年度(2005年4月～2006年3月末)を掲載。定性データ・情報については2005年度を中心に、前後の経過を掲載している場合があります。

### 2 場所(サイト)的範囲

フランチャイズ本部並びに直営店・直営工場、フランチャイズチェーン店・協力工場  
クリーンサービス事業では、販売・工場組織を一部の直営店・工場を除きフランチャイズ展開しています。直営—フランチャイズ間において業務上の差はなく、環境負荷の発生状況にも差がないため、フランチャイズチェーン店・工場を含めたデータを報告しています。ただし、経営及び会計は独立しているため、環境会計は掲載していません。  
また、工場としては本報告データを含む商品の再生加工(洗浄・修理など)を行う工場以外に、商品自体の生産を行う2工場を子会社として運営しておりますが、他の47工場と性格を全く異とするため、報告データに含めておりません。

| 営業(店舗)部門詳細 |             |       | 工場部門詳細 |      |    |
|------------|-------------|-------|--------|------|----|
| 配置店数       |             | 2,216 | 配置工場数  |      | 47 |
| 内訳         | 直営          | 30    | 内訳     | 直営   | 2  |
|            | 子会社         | 50    |        | 子会社  | 12 |
|            | フランチャイズチェーン | 2,136 |        | 協力工場 | 33 |

フランチャイズ本部:大阪

フランチャイズ本部:大阪

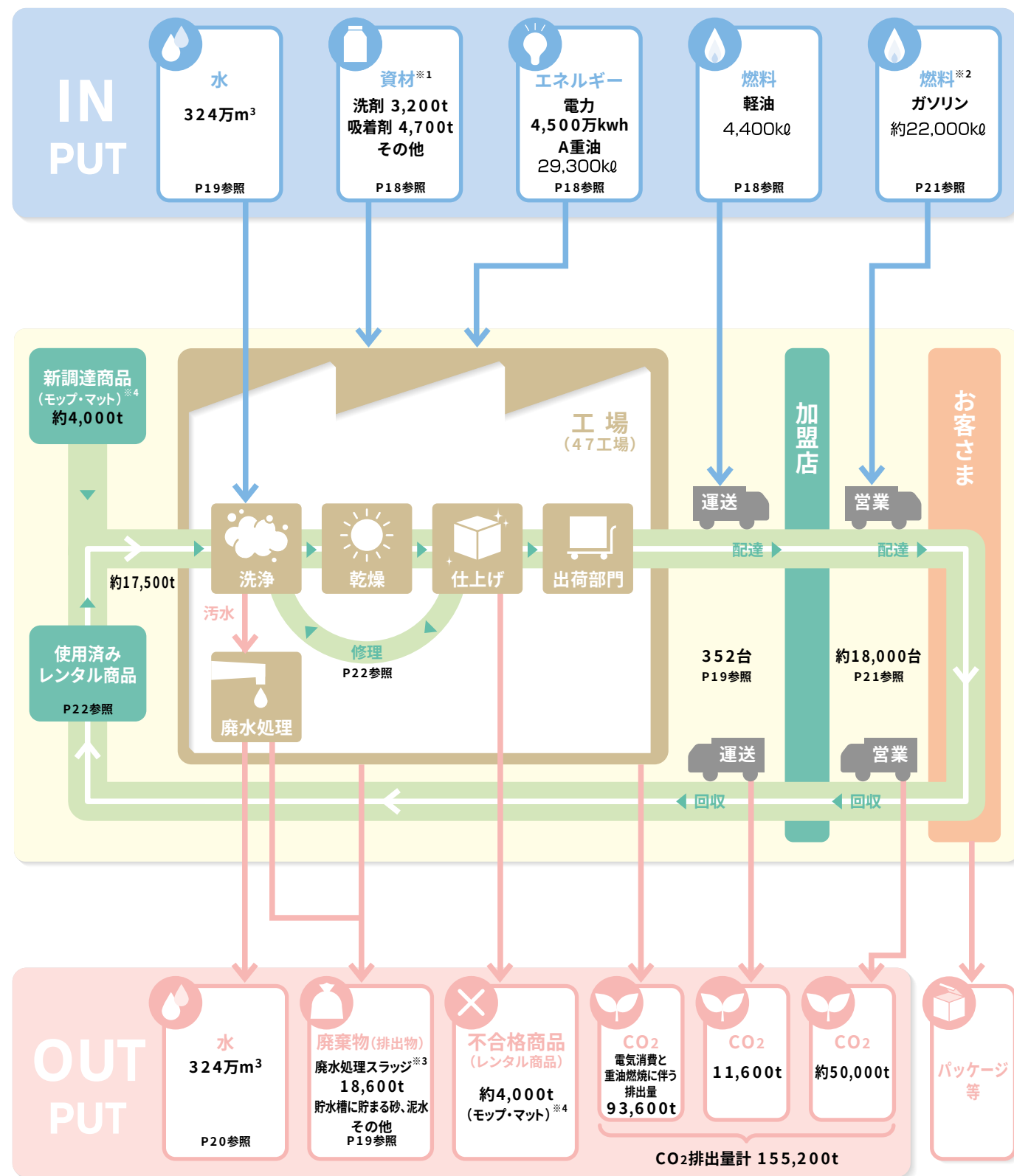
### 4 分野の範囲

本報告は、環境面の情報を主体に構成しております。活動の趣旨や考え方をご理解いただくため、その他分野の情報を含む場合があります。



## 1 環境フローチャート(2005年度実績に基づく年間量)

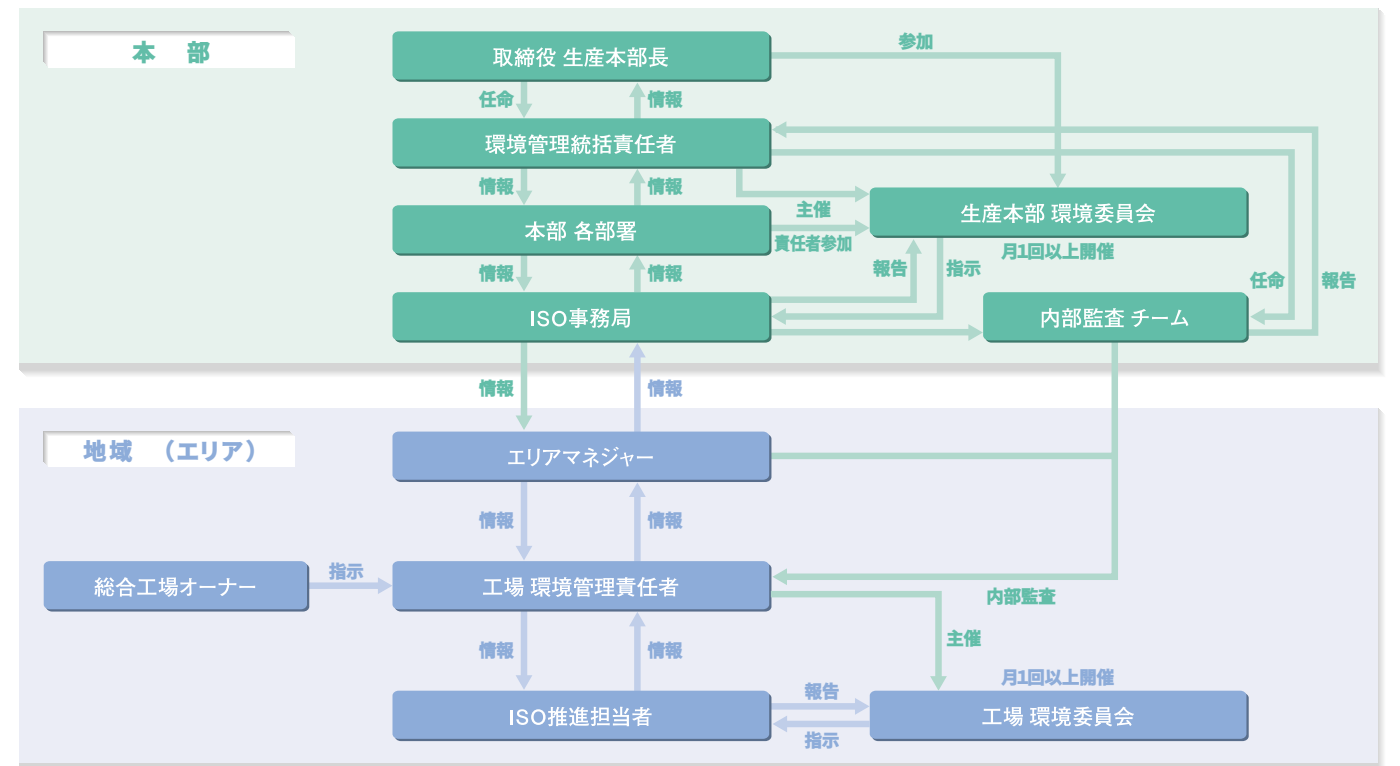
当社では、お客さまへお届けした商品(使用済み)を回収し、工場で再加工を行った上で再びお客さまにお届けする循環型生産システムを採用しています。チャートで工場の業務工程と配送にかかる環境負荷フローをご紹介します。



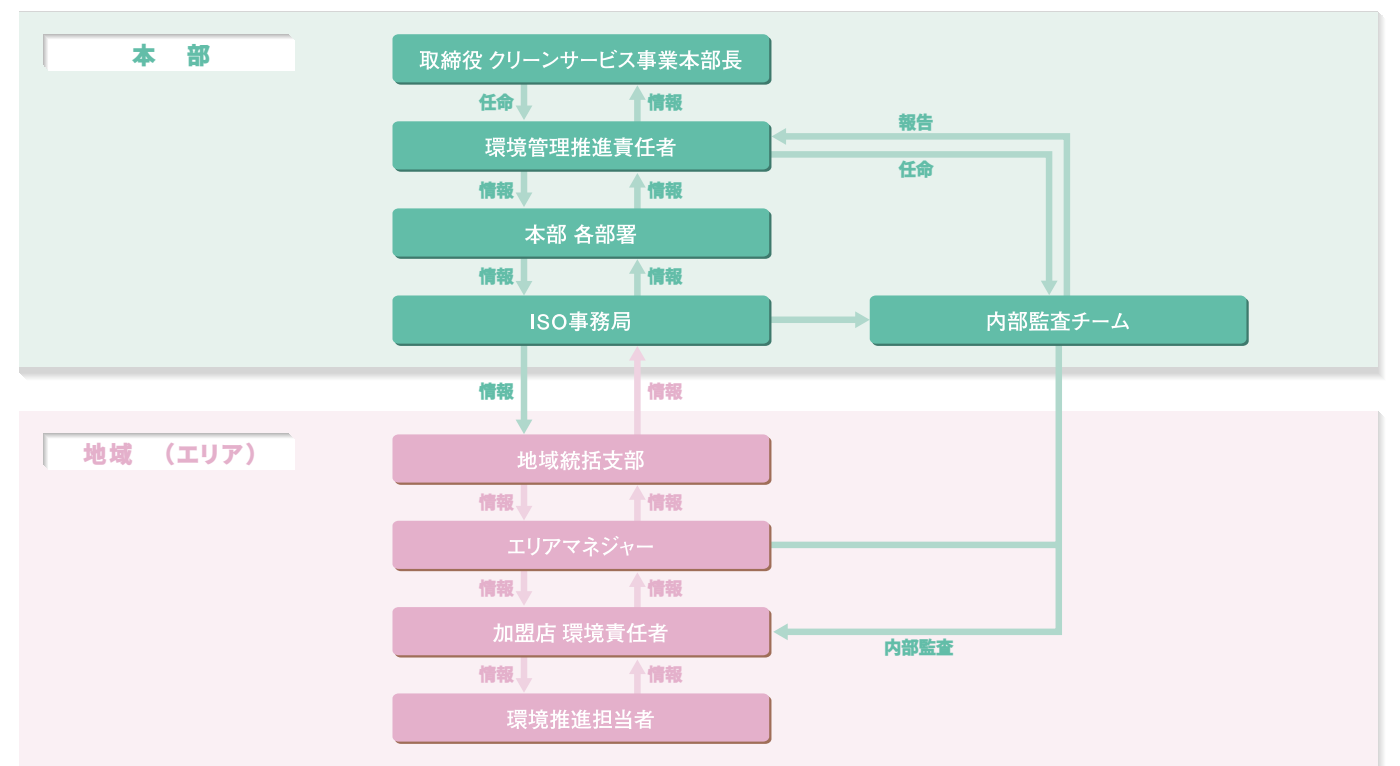
※1 洗剤・吸着剤購入金額は資材全体の約30%を占めています。 ※2 ガソリン使用量は過去2年間の実績より推測。  
※3 スラッジ:汚水からホコリや汚れを分離して固めたもの。 ※4 レンタルモップ・マットはクリーンサービス事業全売上の約80%を占めます。

## 2 環境管理体制

### ■工場部門(生産本部)



### ■営業部門(クリーンサービス事業本部)





## 3-1 事業活動の環境負荷低減への取り組みの状況

### 1 製造（加工）洗剤消費の削減

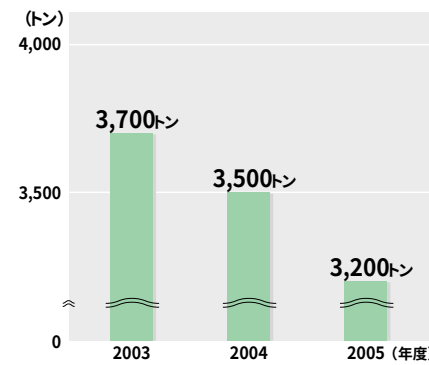
水の改質装置による洗剤削減システムにより、標準タイプの工場で洗剤を35%削減しました。洗剤削減により廃水処理するときの負荷が大幅に削減されるため、廃水処理薬剤（硫酸バンド）を15%、スラッジ※1を20%削減することができました。今後さらに水の改質装置の導入をすすめていきます。



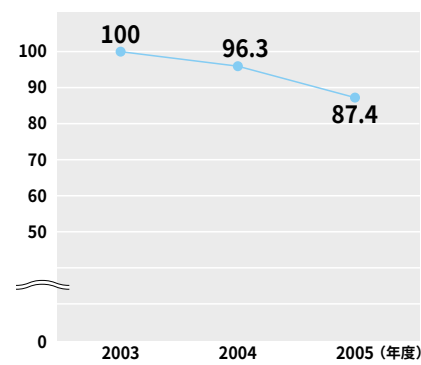
水の特殊処理プラント

※1 スラッジ：廃水処理によって洗浄污水からホコリや汚れを分離して固めたもの。

●洗剤消費量の推移と削減（47工場計）



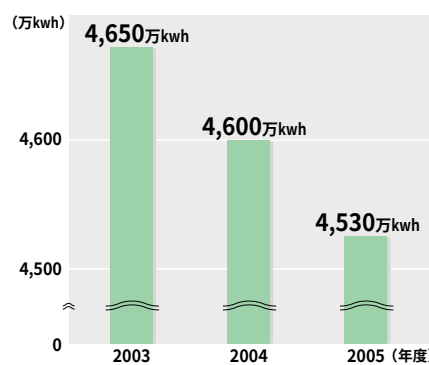
●単位生産当たり消費洗剤量推移（指数）



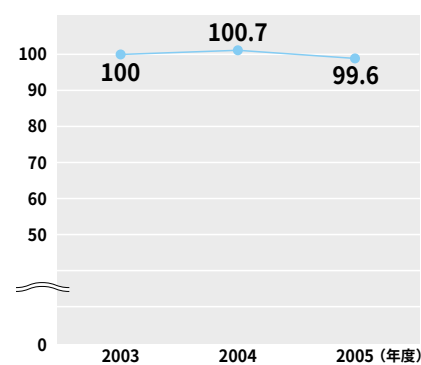
### 2 製造（加工）電気消費の削減

工場従業員の環境意識向上、および各種設備の効率運転の取り組みにより、電気消費削減がすすんでいます。さらなる省エネに向けた設備開発もすすめています。

●電気消費量の推移と削減（47工場計）



●単位生産当たり消費電力量推移（指数）



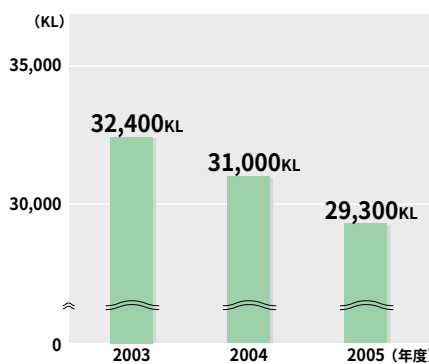
### 3 製造（加工）燃料消費の削減

全国の工場で、高効率乾燥機の導入をすすめています。新開発機は30%、既存機の改造タイプでは12%の熱効率改善を達成。これに伴い、燃料使用量の削減がすすんでいます。

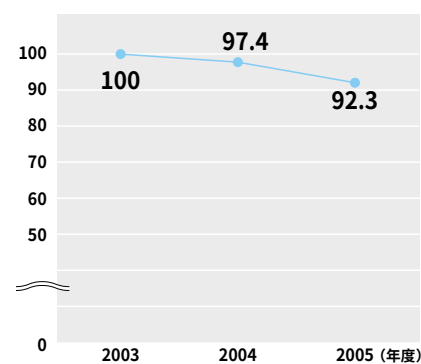


最新型省エネ乾燥機

●燃料消費量の推移と削減（47工場計）



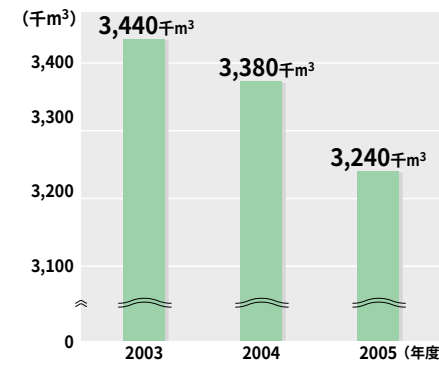
●単位生産当たり消費燃料推移（指数）



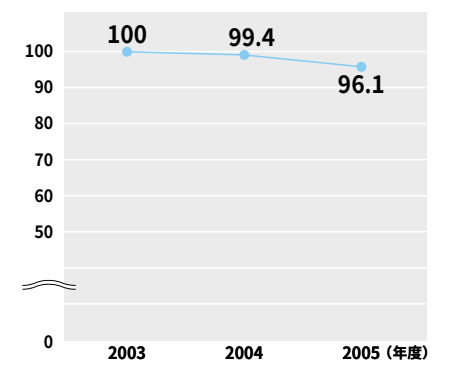
### 4 製造（加工）用水消費の削減

洗濯に使用する水は、通常廃水処理を経て放水されますが、その水を特殊な処理を行いながら繰り返し使用するリサイクル技術を活用した工場が、2004年度の20工場から2005年度は22工場に増加。これにより水消費量の大幅削減に成功しました。

●水消費量の推移と削減（47工場計）



●単位生産当たり使用水量推移（指数）



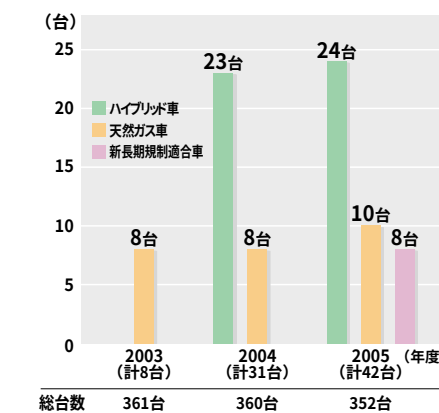
### 5 商品配送車の燃料消費の削減

二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）や窒素酸化物（NO<sub>x</sub>）、スス（PM）などの発生を抑えるため、低公害車の導入をすすめています。さらに、輸送ルートの効率化による車両削減や、アイドリングストップをはじめとするエコドライブの推進により、燃料消費量の削減に努めています。

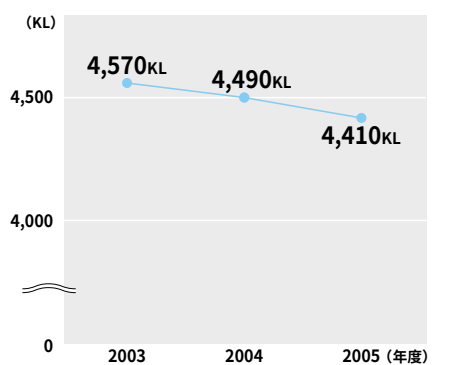


ハイブリットトラック

●低公害車の導入状況（全国）



●商品配送車の燃料消費量の推移



委託運送会社の外部認証状況

|            |                         |
|------------|-------------------------|
| ISO14001認証 | 丸和運輸機関、中野運送             |
| ISO9001認証  | 御船運送、佐賀運輸、熊本交通運輸、丸和運輸機関 |
| グリーン経営認証   | 大島倉庫運輸                  |

（委託運送会社：31社）

### 6 製造（加工）廃棄物の削減

#### スラッジの資源化処分

マットやモップの洗濯廃水処理した時に分離したホコリや汚れは、スラッジという固まりとして処理されています。これをセメントの原材料として資源化する取り組みを1999年度より開始し、現在では

100%の資源化を達成しています。2005年度は、約19,000トンのスラッジを資源化処分しました。現在、スラッジの削減に向けて取り組んでいます。

#### ピット汚泥の減容化（脱水システム）

大半が水分であるため、脱水して処分する技術を開発しています。



## 3-2 事業活動の環境負荷低減への取り組みの状況

### 7 廃棄物や排水による汚染の削減

#### 化学物質の使用・排出の削減（PRTR※報告量の推移）

※PRTR…人や環境への安全性に対する様々な研究に基づき、使用を管理し排出実績を報告することが定められている化学物質。

##### ●資材（洗剤）由来成分としてのPRTR報告量推移（トン）

| 化学物質   | 処分方法             | 2002年度 | 2003年度 | 2004年度   | 2005年度 |
|--------|------------------|--------|--------|----------|--------|
| POE ※1 | 廃水処理で分離後、専門業者で処分 | 89.5   | 0（全廃）  |          |        |
| LAS ※2 | 廃水処理で分離後、専門業者で処分 | 238.5  | 250    | 0（1トン未満） | 0（全廃）  |

※1 POE（ポリオキシエチレンアルキルエーテル）一般的な洗剤原料の一種

※2 LAS（直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム）一般的な洗剤原料の一種

PRTR報告対象量（年間1トン）には達していませんでしたが、工場資材である洗剤に微量含んでいたLASの全廃を完了しました。

##### ●その他のPRTR報告量推移（トン）

| 化学物質   | 処分方法                        | 2002年度 | 2003年度 | 2004年度 | 2005年度 |
|--------|-----------------------------|--------|--------|--------|--------|
| DOP ※3 | 溶出分は廃水処理で分離後、処分商品と共に専門業者で処分 | 2      | 2      | 190    | 170    |

※3 DOP（フタル酸ビス）ゴムなどをしなやかに保つ一般的な添加剤（可塑剤）の一種

新たに調達するレンタルマット裏面ゴムへのDOP※3の使用（配合）は9月以降全廃しました。ゴムは固体であるためPRTR報告義務はありませんが、当社ではマットの洗浄排水にごく微量のDOPが溶出することを確認したため行政と相談し、あえて報告してきました。2004年度からは、処分したマット自体に含まれるDOPの全量を加えて報告しています。この成分は溶出分も廃水処理により水から除去し、すべて専門業者で処理するため環境を汚染することはありません。

#### 工場放流水に残留する汚れ成分の削減

工場放流水は、法基準よりも厳しい自主基準によって管理（P24参照）することで、汚れ成分の排出総量を減少させています。

##### ●河川放流水場の放流水汚濁成分濃度

|        | 2005年度平均排出濃度（mg/L） | 水濁法規制値（mg/L）           | 備考                           |
|--------|--------------------|------------------------|------------------------------|
| BOD ※1 | 6                  | 最大160日間 平均120          |                              |
| COD ※1 | 17                 | （参考値）<br>最大160日間 平均120 | 海・湖への排出規制値であり河川放流には適用されていません |
| N（チッソ） | 6                  | 最大120日間 平均60           |                              |
| P（リン）  | 1                  | 最大16日間 平均8             |                              |

水質汚濁防止法（水濁法）よりも厳しい条例基準が適用されている工場もあります。

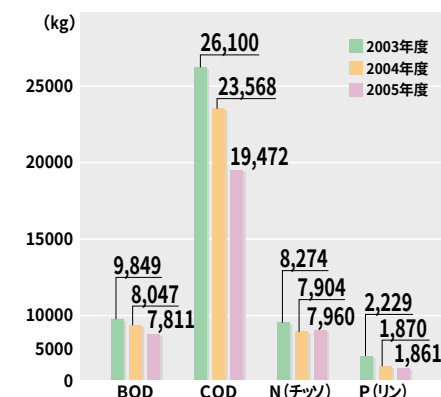


洗剤



マット裏面のゴム

##### ●河川へのBOD、COD、N（チッソ）、P（リン）総排出量推移（河川放流を行う16工場集計）



※1 BOD、COD：一般的な有機物による汚れ量。両者は測定方法の違い。  
※2 N（チッソ）、P（リン）：川や湖、海等を富栄養化させる成分…それ自体は水を汚さないが微生物を増やすため、増えた微生物が汚濁原因となる。  
※3 CODは定期測定を行っている14工場を集計しています。

### 8 営業活動の環境負荷を低減

#### 低公害営業車の導入

営業活動で車両を多く使うため（全国で約18,000台）、1997年度から軽オートマチックタイプ天然ガス車の独自開発などをはじめ、排気ガスの低減に取り組んできました。

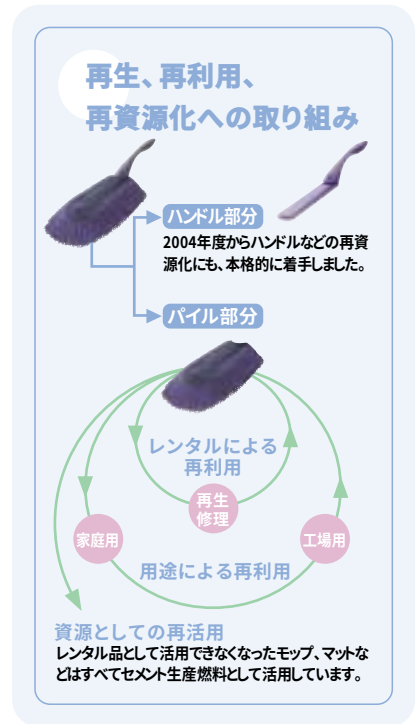
天然ガス車の導入を計画的にすすめると共に、他のすべての営業車もリースアップ時に、政府認証の三つ星以上の低公害車に順次切り替えています。



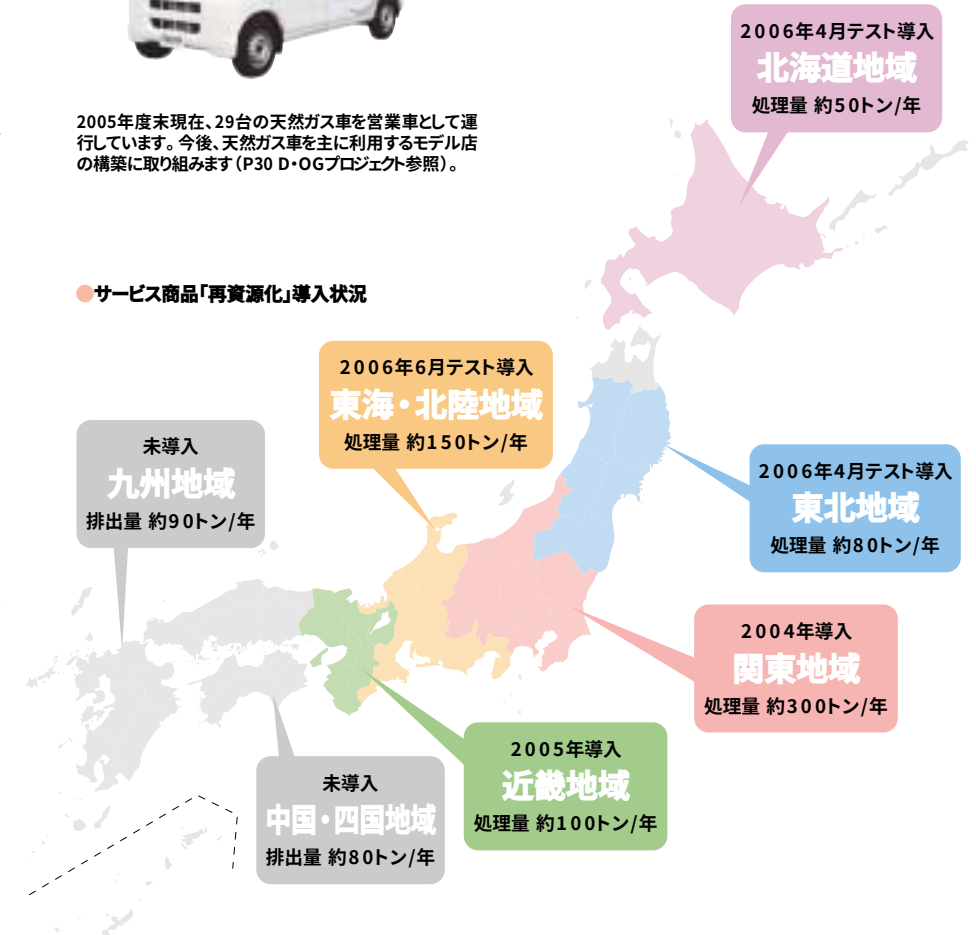
2005年度末現在、29台の天然ガス車を営業車として運行しています。今後、天然ガス車を主に利用するモデル店の構築に取り組みます（P30 D・OGプロジェクト参照）。

#### 商品の回収と再資源化処分

すでに100%の再資源利用を達成しているマットやモップの繊維部分に続き、使用済みのモップのハンドル、空気清浄機本体、浄水器本体、キャビネットタオル本体などを回収して分解、再資源化する取り組みが2004年度より稼働。2005年度は、約400トンの再資源化を実施しました。



##### ●サービス商品「再資源化」導入状況



##### ●リサイクル（再資源化）実施商品



| 導入地域           | 年間処理量   |
|----------------|---------|
| 西関東            | 約150トン  |
| 東関東            | 約150トン  |
| 近畿             | 約100トン  |
| 合計             | 約400トン  |
| 2006年度以降導入予定地域 | 年間予定処理量 |
| 北海道（4月テスト導入）   | 約50トン   |
| 東北（4月テスト導入）    | 約80トン   |
| 東海・北陸（6月テスト導入） | 約150トン  |
| 中国・四国地域        | 約80トン   |
| 九州地域           | 約90トン   |
| 合計             | 約450トン  |
| 総計             | 約850トン  |



## 4 商品の循環活用の状況

### 1 レンタルによる繰り返し活用実績

モップやマットなどのレンタル商品は、商品の寿命が尽きるまで何度も繰り返し工場で再生し、お客さまにご使用いただいています。資源を最大限に有効活用することで、当社はお客さまと共に資源保護に貢献しています。

#### ●主要製品(マット・モップ)の新規投入量

|     |       |
|-----|-------|
| マット | 120万枚 |
| モップ | 670万枚 |
| 計   | 790万枚 |

#### ●全出荷量

|     |           |
|-----|-----------|
| マット | 5,060万枚   |
| モップ | 1億4,270万枚 |
| 計   | 1億9,330万枚 |

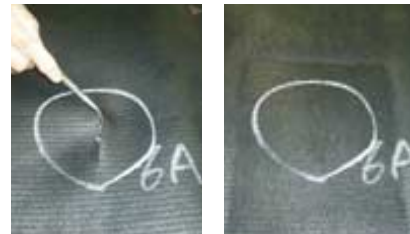
全出荷量－新規投入量＝1億8,540万枚が商品として再使用されています。

### 2 商品の耐久性向上技術、新修理技術の開発・導入

マットやモップなどのレンタル商品は、繰り返し使ううちにシミや変色、破れなどができ、通常工程では再生できなくなることがあります。当社では、独自の再生技術により修理・再生し、再び商品としてよみがえらせる技術開発を、各工場のアイデアを取り入れながらすすめています。

2004年度には、長年の課題であった

マットの保管・配送時に折り曲げられる裏地ゴムの亀裂発生を防止するため、折り曲げ耐久性を従来の50倍に改良する技術を開発。また、有機溶剤を使用せずに、マットゴム部分の破損を復元する修理技術も確立しました。共に、2005年度より全国の工場で導入され、修理実績は154万枚でした。



マットゴム部分の破損箇所を裏面から復元。

#### エコライフへのお役立ち提案

レンタルによる再生利用や資源の有効活用を目的として開発された商品をお客さまに使っていただくことで、お客さまにも環境貢献をしていただくことを提案。カタログやチラシ、ホームページを通じて、広く消費者やお客さまにお伝えしています。



天ぷら油ろ過器油っくりん (P23参照)

●エコマーク認定商品  
「お料理しながらエコできる」ことをテーマに、天ぷら油の再利用を提案。



ダスキンのホームページ  
環境への取り組みや商品を紹介。

#### 東京エリアでのチラシ



オーダーメイドマット (P23参照)  
エコ吸塵・吸水タイプ  
●エコマーク認定商品  
再生ペットボトル繊維を利用したマットは、「ダスキンのエコは、使い捨てないエコ」をテーマに、資源の有効利用を提案。

## 5 エコライフへのお役立ち商品

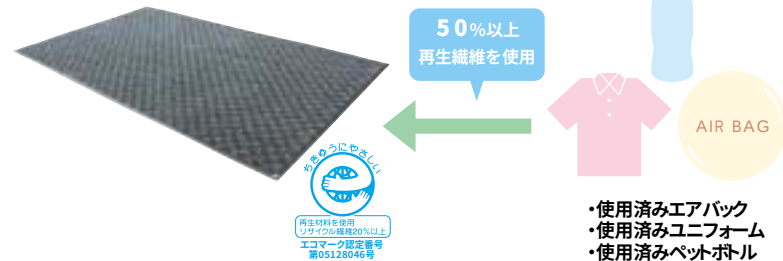
### 環境に配慮した商品設計

#### 再生繊維を使用した商品

##### ■レンタルマット

再生ペットボトル繊維を活用した商品を、事業所用の一部のマットなどで展開してきましたが、2005年度には再生ペットボトル繊維使用率を51%に引き上げた「オーダーメイドマットエコ吸塵・吸水タイプ」を導入。2006年4月に単一再生繊維の使用でなく、使用済みエアバック、使用済みユニフォーム、使用済みペットボトルという複数の再生繊維をパイル(布地)全体の50%以上に使用した「エコリサイクルマット」を導入。

#### ●エコリサイクルマット



#### 資源を有効活用した商品

捨てればゴミになる使用済み商品も、活かすことができれば立派な資源となります。使用済みトナーカートリッジや使用済み浄水器活性炭をリサイクルして、新しい商品として有効活用しています。

##### ■トナーカートリッジ・リサイクルシステム

厳しい品質管理システムでリサイクルを施し、不用パーツは再資源化し再利用しています。また、コストは新品トナーの約半分と大幅な経費削減が可能です。



#### 環境に悪影響をあたえない商品

家庭排水を汚さない商品、省資源に役立つ商品など、レンタルモップやマット以外の商品も環境に配慮。使用することで、環境への負担を減らすことができます。

##### ■天ぷら油ろ過器

使用済みの油をろ過し、繰り返し使用することで廃油削減と河川の水質汚染防止につながる天ぷら油ろ過器「油っくりん」を2004年度より発売。26万個以上を販売した人気商品となっています。



##### ■洗剤

自然に分解されやすい生分解性の高い界面活性剤を使用した洗剤。主原料は天然成分で、安全性が高い成分を厳選して使用しています。



#### 未利用繊維を使用した商品

##### ■レンタルモップ

繊維製品の紡績工程で発生する短繊維などの「未利用繊維」を使用した「ノンオイルモップ・エコ」を2005年度に、「事業所用モップ・エコ」を2006年度に導入。未利用繊維を10%以上使用することで、エコマークの認定を受けました。



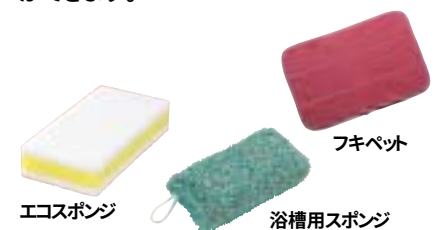
##### ■ダスキ活性炭脱臭シート

ダスキ浄水器の使用済み活性炭を再生したエコ商品。タバコ、トイレ、ペットなどの臭いを抑え、湿気も吸収。



##### ■台所用品

洗剤に頼らなくても水にぬらして軽くこするだけでガンコな汚れを落とすことができます。





## 6 環境保全活動の状況

### 1 事故、緊急事態への対策状況

#### 廃水トラブルへの対策

2005年度、外部に環境影響を出したものと、洗濯廃水があふれて雨水溝などに流れ込む事故が2件（2工場）発生しました。いずれも少量でしたが、行政に報告し、防液堤を設置するなど再発防止策を行いました。

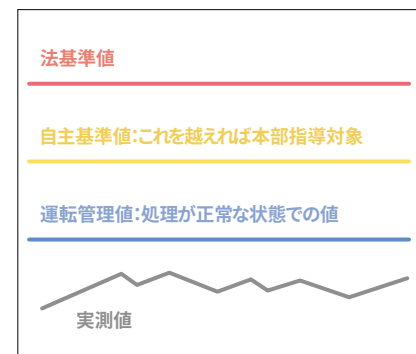
### 2 環境法の遵守と監視・測定の状況

工場の活動状況や各種法規制への適合状況は、定期報告書やイントラネット、インターネットを通じて本部データベースに収集されます。

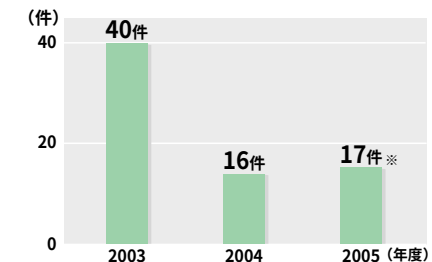
#### 水質自主管理基準値を設定

商品の洗浄・再生を行うダスキンの工場にとって、最も重要な監視項目である廃水処理後の放流水に残留する汚れ成分の定期分析・測定では、法基準を確実に遵守するため、法律よりも厳しい自主基準値や特性項目による運転管理値を設定して、水質の傾向管理を行い、処理の安定化を図っています。

#### ●管理基準の設定（モデル）



#### ●自主基準値オーバー件数



※測定件数:全47工場で年間延べ約6,500件

#### 土壌汚染調査と対応

1975年～1986年の間、ウエス洗浄にドライクリーニング溶剤（テトラクロロエチレン）使用実績があった神奈川工場について、自主的に土壌汚染状況の調査を行いました。

#### ■ダスキン神奈川工場での調査結果（神奈川県 平塚市）

##### 〔調査確認結果〕

2005年4月の予備調査でテトラクロロエチレンの残留を確認したため、同年8月に詳細なボーリング調査を行い、結果を管轄する平塚市に報告しました。

工場敷地内の一部土壌からは、最大で環境基準の9倍、地下水で約200倍のテトラクロロエチレンを検出しましたが、敷地外へは土壌、地下水共に汚染がないことが確認されました。

#### ■汚染の原因

ドライクリーニングでは密閉式の専用洗濯乾燥機で水の代わりにテトラクロロエチレンを循環・蒸留しながら洗濯を行います。

溶液の移し替えや機械のメンテナンスの際に、少量のテトラクロロエチレンがこぼれて地中に浸透したものと考えられます。

#### ■対応および対策状況

平塚市と相談の上、2006年4月8日に住民説明会を開催し、調査結果や対策内容を説明。同年4月22日より浄化作業を行っています。浄化方法は土壌に対してはガス吸引方式、地下水は浄化井戸を掘って汲上方式で行っており、数値の減少状態を確認しながら約1年～2年での完全浄化を予定しています。

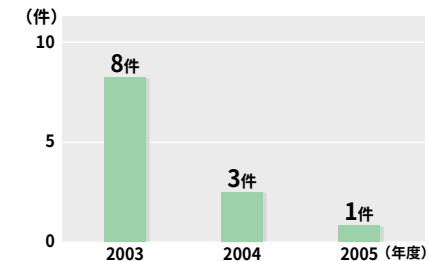
また、敷地境界には観測井戸を設けており、今後の汚染の広がりに対しても万全を期しています。

#### 火災防止対策

モップ・マットだけでも年間2億枚もの商品を洗濯・乾燥する工場では、大事には至らなくとも商品の一部および設備やその部品の一部を焦がすようなトラブルが年間何度か発生し、その防止対策に注力してきました。

乾燥機などの改良を重ねた結果、2005年度には現場作業員

#### ●防火に関するトラブル件数推移（工場部門）



が異臭（焦げ臭）を感じ、設備を停止して対処した1件のみに至りました。今後もさらに安全な工場を目指し、改善を続けていきます。

#### 石綿（アスベスト）対応について

ダスキンでは、石綿（アスベスト）を製造または原材料として使用していませんが、「石綿障害予防規則」が2005年7月1日に施行されたのに伴い、生産拠点の建物（各工場内建物、事務所、倉庫）に対し内部監査で1980年以前の建物を対象に吹き付け材の有無を確認し、使用されている工場には専門業者による調査を実施しました。詳細調査で3拠点で吹き付け材にアスベストの含有がわかり、2拠点で除去・封じ込めを完了。残り1拠点は2006年10月に除去を実施します。

今後も、石綿使用材料による暴露の恐れがあると判断した場合には、適宜迅速な対応をとっていきます。

### 3 内部チェック（監査）の状況

工場での管理状態は管轄エリアのエリアマネージャー（スーパーバイザー）が定期巡回しながらチェックを行っています。

この定期巡回とは別に、工場では毎年一度、改善活動の進捗や管理の適切性などについて総合的な内部環境監査を実施しています。さらに、2003年度から2005年度にかけて全工場の廃水処理設備・管理・運転状況・トラブル対策について特別監査（総点検）を行い、多くの是正を行いました。



廃水処理設備の点検。



廃水処理設備（横浜中央工場）。

### 4 教育・啓蒙の状況

工場部門では法律により義務づけられた資格者配備以外にも、環境保全上重要な業務にかかわる者に対して社内研修を行い、受講修了を資格条件の一部としています。

- ①内部監査員
- ②廃水処理運転
- ③ボイラー運転
- ④危険物取扱

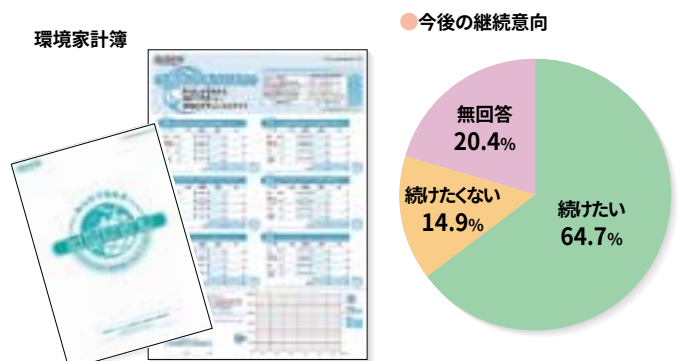


「内部監査員研修」…専門機関講師による2日間の研修。内部監査員や工場長の必須講習としています。2005年度の受講者は37人。累計256人。

#### 社員が環境家計簿に取り組む

お客さまに環境に優しい商品やサービスをお届けしたい。そのためは、「まず自分たち自身が環境への意識を高め、CO<sub>2</sub>排出量削減に取り組もう」。その思いから営業部門の社員が「環境家計簿」をつけています。

「環境家計簿」とは、家庭で電気・水道・ガソリンなどの使用量と料金を記録し、どれだけ削減できたかを家計簿のように管理するもの。2005年度には、フランチャイズ本部の社員約200人が取り組み、約76トンのCO<sub>2</sub>削減効果（一世帯当たり1,035円／月の節約）をあげました。2006年度はさらに、本部約700人と環境推進モデル直営店5店の組織員（お客さま係）に活動の輪を広げて取り組んでいきます。





## 7 環境コミュニケーションの状況

### 工場見学の実績

#### 工場見学の実績

全国の工場では、ご要望に応じて工場の見学受け入れを行っています。2005年度は延べにして10,864人の方が訪れられました。

#### ●2005年度の工場見学者数

|         |         |
|---------|---------|
| ダスキン組織員 | 6,144人  |
| 学校関係者   | 2,271人  |
| 一般      | 2,449人  |
| 合計      | 10,864人 |
| 開催回数    | 588回    |



工場見学に訪れた参加者たち。

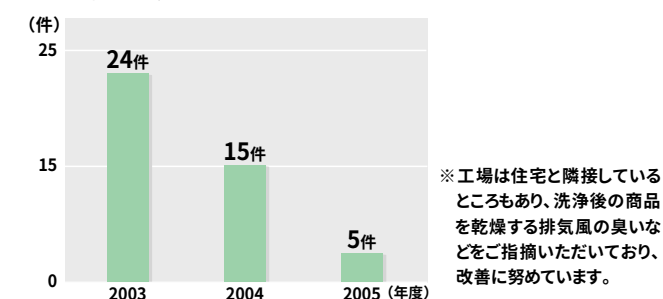
#### 消費者、生活者の皆さまのご意見受付と対応例

環境に限らず消費者や社会の皆さまからのご指摘やお問い合わせに対しては、コールセンター（0120-100100）やホームページを窓口として速やかに対応しています。

直接、各地の事業所が承った場合も、速やかな対応と共に本部に伝達し他事業所の改善に役立てています。

生活環境に関わる場合は、地域を代表するご意見として受け止め、現地調査や測定、改善対策の説明を行い、対策後日に改善効果の確認を行うよう努めています。

#### ●工場で承った臭気※に関する推移



## 8 地域社会へのお役立ち

### 1 小学生の社会見学としての工場見学開催

通常の工場見学とは別に、社会学習の場として活用していただくため一部の工場で小学生を対象に工場見学を開催しています。



キャラクターを登場させたテキストを使うことで、子供たちが楽しみながら環境のことを学べるように工夫しています（P29参照）。

### 2 フランチャイズチェーン店の活動事例

フランチャイズチェーン店・工場などでも各地で独自の地域活動を行っています。その一例をご紹介します。

#### 地道な活動が実を結ぶ

##### ■神奈川県 ダスキン林支店

1968年の会社設立以来、隔週土曜日に十数人の有志が集い、事務所から半径100m程度のエリアでゴミ拾いを実施。事務所が移転した現在も継続して実施しています。これが地域の方から評価を受け、地元自治会から感謝状をいただきました。



「地域清掃活動を通じて、ゴミゼロの意識を定着していきたい」と社員。

#### 工場・地元フランチャイズチェーン店が連携

##### ■熊本県 熊本中央工場

熊本中央工場で「ダスキンありがとう祭」が開催され、ダスキン商品の展示即売会やフリーマーケット、飲食屋台、地元農産物販売などたくさんの企画が実施されました。天気にも恵まれ、724人もの人々にご来場いただきました。

「ダスキンをお使いいただいているお客さまに感謝の気持ちをお返しする」をテーマにした地域への奉仕活動は、今後も継続していく予定です。



ダスキンご利用のお客さまが来場者の中心でしたが、中にはポスターやチラシを見て来られた方も。

#### フリーマーケットで地域貢献

##### ■東京都 ダスキン久米川支店

ダスキン久米川支店では駐車場を利用して、フリーマーケットを開催しました。事前にお客さまや近隣住人の方に2,000枚のチラシを配布したところ、200人以上の来場があり、大盛況となりました。

「自店の車が近隣を走り回り、地元環境に負荷をかけていることから、何かお返しをしたい」との思いからはじまったこのイベント。「今後も続けてほしい」とお客さまの声が多数寄せられたため、今後も定期的に開いていく予定です。なお、売上の一部は東村山市役所福祉課に寄付されました。



このイベントはISO14001の定期審査でも高評価を受けました。

## 9 クリーンサービス事業の環境年表

|       |     |                                             |
|-------|-----|---------------------------------------------|
| 1963年 | 2月  | ダスキン創業                                      |
|       |     | 化学そうきんレンタルのフランチャイズ展開、工場配置開始                 |
| 1971年 | 2月  | 工場への廃水処理設備配置開始                              |
|       |     | 平塚工場（現・神奈川工場）に廃水処理装置第1号を導入                  |
|       |     | 「ホームダスキン（商品名）」のリサイクルウエス事業開始                 |
|       |     | （同年末 水質汚濁防止法施行）                             |
| 1973年 | 12月 | 全40工場に廃水処理装置を導入完了                           |
| 1990年 |     | 廃棄物自社処理を目指し工場への「焼却炉」導入開始（社会情勢変化により～2004年全廃） |
| 1998年 |     | 「天然ガス営業車」を導入開始                              |
| 1999年 | 2月  | 工場のISO14001認証取得を開始（第1号として大阪中央工場認証取得）        |
|       |     | 工場の廃水処理汚泥（スラッジ）のセメント原料化開始                   |
| 2000年 |     | 寿命の尽きたモップ・マットなどのセメント燃料化開始                   |
| 2001年 | 3月  | クリーンサービスフランチャイズ本部・全国の加盟店一括ISO14001認証取得      |
| 2003年 | 3月  | 全国47全工場ISO14001認証取得完了                       |
| 2004年 | 3月  | 全国の工場設置焼却炉を廃止完了                             |
|       |     | 寿命の尽きたモップハンドル・空気清浄機本体などの本格リサイクル開始           |
| 2004年 | 6月  | エコマーク認定天ぷら油ろ過器「油つくりん」発売                     |
| 2005年 | 2月  | 「小学3年生～6年生対象 ダスキン工場見学」横浜中央工場見学会の受付開始        |
|       |     | エコマーク 認定レンタルマット「オーダーメイドマットエコ吸塵・吸水タイプ」発売     |
|       |     | （2月16日 京都議定書発効）                             |
|       |     | 天ぷら油ろ過器「油つくりん用フィルター」が第4回高知エコ産業大賞「優秀賞」受賞     |
| 2005年 | 11月 | エコマーク認定レンタルモップ「ノンオイルモップ・エコ」発売               |
| 2005年 | 12月 | 事業所用モップ主力6商品がエコマーク認定                        |
| 2006年 | 4月  | エコマーク 認定レンタルマット「ダスキン エコリサイクルマット」発売          |



## 環境活動推進への内部制度

### 表彰・奨励制度

#### 環境に対する取り組みが社長特別表彰を受賞

前年度に成果を上げた実績の中から毎年期首に選ばれる社長特別表彰。2005年度の取り組みからは、環境分野では「活性炭入り培養土の開発（P9参照）」と「乾燥機の省エネ運転の提案（P18参照）」の2件が受賞しました。



回収された浄水器カートリッジの活性炭を再活用して培養土の商品化に成功。写真は表彰式の様子。



乾燥プログラム（工程）の変更により、工場全体で19%の燃料削減を実現。写真は表彰式の様子。

#### ボランティア休暇制度など

ボランティア休暇制度（株式会社ダスキン）を活用して社員が環境保全活動などに参加しています。



休暇制度を利用して2005年度に労働組合が募集したパングラディッシュ・マングローブの植林に1人が参加しました。

### 教育・啓発

#### 環境への見識を深める講演会の実施

環境に配慮した企業経営をすすめるため、経営レベルや実務レベルで各種の社内講演会などを本社や地域で開催し、社員や加盟店の理解を深めています。

2005年度には、環境分野のオピニオンリーダーとして世界的視野で活躍されている山本良一教授（東京大学生産技術研究所）を本社に迎え、講演していただきました。



山本良一東京大学教授に、消費者のグリーン購入の現状や、ダスキンのレンタルシステムの可能性、企業としての役割についてお話を伺いました。

#### 社内への呼びかけ

省エネルギーなどに対する全社（社員）の意識を高めるため、チームマイナス6%活動（P30参照）を社内に呼びかけ、夏季にはクールビズや夜間の照明を消すキャンドルナイト、冬季にはウォームビズを推進しています。これらの活動では、実施事業所の省エネルギー効果も上げています。



クールビズを推進するポスター。

#### 事業所周辺の清掃活動

創業以来、ダスキンでは事業所や工場など全国の活動拠点周辺で、清掃活動を行っています。事業所ごとに行う日常的な清掃活動と共に、創業記念日には、全国規模の活動も行っています。これらの活動を通じて環境や社会へのお役立ちに対する意識を高めています。また、各事業所が所在する地域の活動にも参加しています。



当社創業記念日の11月16日は、「企業集団感謝デー」と銘打ち、1万人を超える参加者が全国10地域145拠点で清掃活動を行いました。



本社周辺での清掃活動の様子。このほか本社では、所在地である大阪府吹田市の「江坂地区たばこポイ捨て禁止条例」の啓発運動や、江坂地区「クリーンデー」活動などに参加しています。



フランチャイズチェーン店でもそれぞれが地域清掃活動を行っています（埼玉エリアケアサービス加盟店会）。

### 業務ルールの整備

#### 環境関連の「ガイドライン」策定

環境負荷を低減するための行動指針として次のようなガイドラインを定めています。

- 化学物質管理ガイドライン  
商品や使用薬剤などに対する化学物質成分の自主規制を定めています。
- 環境に配慮した商品づくりのガイドライン  
商品設計を行う上での環境配慮を定めています。
- グリーン購入ガイドライン  
業務車両や、文具・オフィス用品などに関する環境配慮の社内基準を定めています。

※上記は、環境に特化した社内ガイドラインのみを記載しています。この他にも各種の社内文書により環境管理を行っています。

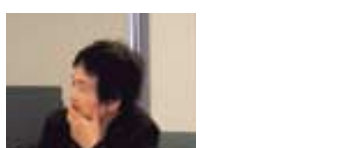
#### 消費者の立場から社外役員が経営に参画

消費者やお客さまの声を経営に活かし、公正な企業運営を行うため、当社では社外の消費者を代表し取締役、監査役としてお招きしています。

コンプライアンス、品質保証、環境保全に関する各種重要会議や委員会に参画すると共に、「ダスキン行動基準」の策定にもご協力いただきました。当社では、消費者や

お客さまの声を経営に反映できる体制をすすめています。

坂本允子 社外取締役  
（前）全大阪消費者団体連絡会事務局長



新井ふく 社外監査役  
（現）社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会常任顧問

## 社会との環境コミュニケーション

### 地域やNPOの皆さまと共に

#### 小学生を対象に工場見学を実施（横浜中央工場）

2004年度から小学生を対象にした工場見学を本格的に開始しました。工場の業務内容をはじめ、環境面での取り組みを楽しみながら理解していただくために、体験型プログラムを取り入れています（P26参照）。

| ●2005年度横浜中央工場見学集計 |      |
|-------------------|------|
| 小学生（子供）           | 309人 |
| 大人                | 64人  |
| 合計                | 373人 |
| 開催回数              | 9回   |



ダスキンのリサイクルシステムに感心する小学生たち。

#### 子供たちへのおそうじ教育を支援

暮らしの快適化生活研究所では、掃除を通じて子供たちの力を伸ばしたいという願いから支援活動に取り組んでいます。2005年度には、掃除のもつ教育的効果「段取り力」をテーマとし、現職の先生方との研究会や教育関係者対象のフォーラムを開催しました。

※2004年度よりウェブサイト「小学生向け掃除教育カリキュラム」を策定・公開し、先生方のご協力を得ておそうじの大切さを子供たちに訴えかけています。  
[www.duskin.co.jp/hoshin/shakai/gakko](http://www.duskin.co.jp/hoshin/shakai/gakko)



2006年2月18日に「子どもたちの力を伸ばす掃除を考えるフォーラム」を開催。生徒の主体的活動を促す可能性として「段取り力」に注目し、学校掃除との関連や具体的な活動案についての研究成果を発表。

#### 「京都市都心部グリーン配送推進協議会」に協力宣言

京都議定書発効に併せて2004年1月に京都市が設けた「京都市都心部グリーン配送推進協議会」に対し、当社も賛同。協力への宣言を行いました。

この協議会の趣旨は、京都市中心街にエリアを設け「環境にやさしい配送車の利用を促進しよう」と、企業や市民に呼びかけるもの。当社をはじめとする協力企業では、アイドリングストップなどエコドライブの徹底や、低公害車の導入に取り組んでいます。

当社は、京都府下の加盟店の協力により、2010年までに府内290台の全登録車両を低公害車に切り替えていくことを目標としています。



低公害車  
ステッカーを営業車に貼り  
協力をアピール。

京都市都心部グリーン配送推進協議会が配布している冊子。



## 社会との環境コミュニケーション

### 他企業の皆さまと共に

#### 大阪ガス(株)と共同で 天然ガス車の活用を推進 「D・OGプロジェクト」発足

当社では1997年度よりCO<sub>2</sub>排出量が少なく排ガスがきれいな「天然ガス車」を導入してきました。2005年度からは、大阪ガス(株)との共同事業「D・OG(ドッグ)※プロジェクト」をスタートし、天然ガス車で工場・店舗・お客さま間を結ぶ「グリーン配送モデル事業」の構築をテストエリアの近畿圏ですめています。枯渇が迫る石油の使用を少しでも減らし、排ガスがクリーンで、CO<sub>2</sub>も少ない天然ガスをもっと有効に利用する社会を提案しています。

小型天然ガス車の先行導入企業として、地域全体に天然ガス車が積極的に導入(活用)されるよう、行政などにも働きかけしています。

※D・OG(ドッグ)とは、ダスキンのDと大阪ガスのOGとを合わせたものです。



新聞にもこのプロジェクトは大きく取り上げられました(「物流Weekly」2006年1月16日号より)。

### 消費者の皆さまと共に

#### 消費者団体との懇談会を開催

安全・安心な商品の提供、企業コンプライアンスの推進など、企業としての社会的責任をより積極的に果たしていくため、消費者を代表する団体の方々と懇談会を2005年度から開始しました。2月に行った第1回懇談会には7団体／企業から14人の代表者をお迎えしました。

コンプライアンス、循環型社会に向けての取り組み、ミスタードーナツの食品安全管理システムなどについて説明し、ご意見をいただきました。



第1回消費者団体懇談会の様子。出席者からは「一般社会への広報活動をより積極的に行ってほしい」という要望をいただきました。

#### 第1回消費者団体懇談会 出席者団体

1. (財)関西消費者協会
2. 全大阪消費者団体連絡会
3. なにわの消費者団体連絡会
4. 特定非営利活動法人コンシューマーズ京都
5. (社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会西日本支部
6. (社)全国消費生活相談員協会関西支部
7. (株)日本消費経済新聞社

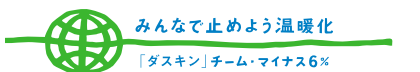
### 研究会などへの参加・協賛

#### 環境活動への参加や支援

持続可能な社会づくりを目指して、全国規模や地域で行なわれている様々な環境関連の活動や研究会などにダスキンおよび加盟店として参加しています。

#### 主な会員参加中のプロジェクト

- SPEED (Special Project on Eco-Efficiency and Eco-Design／エコエフィシエンシーとエコデザイン技術特別研究会)  
東京大学生産技術研究所の山本教授が主催する環境に配慮した商品づくりと環境経営のための研究会。  
※参加企業約60社。
- チームマイナス6%  
環境省が温室効果ガス(CO<sub>2</sub>等)の削減を目指して国民や企業に参加を呼びかけているプロジェクト。



- グリーン購入ネットワーク  
環境に配慮した商品の優先的な購入や販売をすすめる全国ネットワーク。
- ネットワーク『地球村』  
「美しい地球を子どもたちに」を合言葉に、地球の環境保全や平和を目指し活動しているNPO(市民ネットワーク)。

#### 「サステナブル社会 教育プロジェクト」協賛

子供たちへの環境教育に役立ててもらうため、前年に続き「サステナブル社会教育プロジェクト」に賛同。ダイヤモンド社発行の『気候変動+2℃』を、全国の小中学校や高校、養護学校など4万校に寄贈しました。



地球温暖化や気候変動をテーマに、1950年から2100年までの温暖化シミュレーションや地球環境に関するトピックスがわかりやすく紹介されています。

### 情報発信

#### メディアでの発信

2005年度には当社の環境への取り組みをテーマにした企業CM「ダスキンのエコ」シリーズを放映しました。シンプルでわかりやすく当社の取り組みを表現し、テレビCMの他にも雑誌や新聞でイメージが統一された広告を展開しました。



「ダスキンのエコ」シリーズCM。

#### 各地のイベントなどに出展

当社の環境活動をお伝えするため、各地で開かれるイベントや展示会に出展しています。



環境ビジネス支援拠点としてエコプラザを開設している大阪市・アジア太平洋トレードセンター(ATC)に、開設当初の2000年度からブースを出展しています。



本社在地の大阪府吹田市で開かれる吹田産業フェアに毎年出展。2005年度は、「大型紙芝居」や「ちびっ子環境クイズ」を行い、大盛況!

#### ダスキンホームページでの発信

当社ホームページでも企業情報に加えて、環境に関する情報を発信しています。ぜひご覧ください。



ダスキンホームページ  
[www.duskin.co.jp](http://www.duskin.co.jp)

#### グリーンレポートの発行

当社では、2000年度より環境報告書としてグリーンレポートを発行しており、2005年度は2万部を配布しました。



歴代のグリーンレポート。

#### 社会(消費者)の評価 日経BP環境ブランドランキング40位

日経BP社が、日本の主要企業の環境貢献度を調査する「2005年度日経BP環境ブランドランキング」。このランキングで、当社は40位という評価をいただきました。今後も環境への取り組みと共に情報公開をすすめ、消費者の皆さまから信頼される企業を目指していきたいと考えています。

## 環境保全活動の取り組み

1963年 ダスキン創業

クリーンサービス事業(化学そうきんレンタルのフランチャイズ展開、工場配置)開始

1971年 工場への廃水処理設備配置開始

ミスタードーナツ事業開始  
(1974年からは陶器・ガラス食器使用)

ケアサービス事業開始  
※サービスマスター(プロのおそうじ)展開より

1973年 全工場に廃水処理装置を導入完了

1978年 レントオール事業(総合レンタル)開始

1993年 ミスタードーナツで油のリサイクル処分開始  
(一部は石けんとして自家活用)

1994年 ミスタードーナツがニューフードサービス推進優良事業者表彰でエコロジカル・フードサービス部門「農林水産大臣賞」受賞

1996年 (ISO14001発行)

1998年 環境理念・環境方針を制定

1999年 工場のISO14001認証取得を開始

2000年 ケアサービス事業でセントリコン(低薬品シロアリ防除システム)導入

初の環境報告書「グリーンレポート2000」刊行

ミスタードーナツ事業ISO14001認証取得

2001年 クリーンサービス事業(営業部門)ISO14001認証取得

ケアサービス事業ISO14001認証取得

レントオール事業ISO14001認証取得

2003年 全工場のISO14001認証取得完了

2004年 「ダスキン行動基準(第1版)」を発行(環境への基準を含む)

小学生環境教育の場としての工場見学開催開始(横浜中央工場)

レントオール事業でレンタル介護用品シリーズを本格展開開始

2005年 環境管理規定の制定

(2月 京都議定書発効)

新・環境方針を制定

京都市都心部グリーン配送推進協議会への協力宣言

大阪ガスと共同環境貢献プロジェクト「D・OGプロジェクト」発足

ダスキングループCO<sub>2</sub>削減に向けての基本行動計画決定・発表